

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

6年生を対象に5月27日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。調査結果とそれをふまえた本校としての取組についてお知らせいたします。

尚、今回の調査により測定できるのは、児童の学力や学習状況の一部であり、学校の教育活動の一側面です。今後も児童一人ひとりの力をつけることに教職員一丸となって取り組んでいきます。

【調査結果の傾向と取組】

国語	<ul style="list-style-type: none">・全体で見ると、全国平均をほんの少し下回った。「国語の勉強が大切である」「将来、社会に出た時に役に立つ」と感じている児童は多いが、国語に対して苦手意識をもつ児童も多いことが分かった。・「話すこと・聞くこと」に関する領域では、全国平均を上回っていた。中でも、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの内容を考える力」「話や文章内容の中心となる事柄を把握する力」が高かった。・「書くこと」に関する領域では「目的や意図に応じて理由を明確にしなが、自分の考えを書き表す力」に課題があることが分かった。・選択式の問題では、文中における主語と述語の関係、修飾と被修との関係をとらえる問題に課題が見られた。	<ul style="list-style-type: none">・「言葉の特徴や使い方に関する事項」では主語と述語、修飾と被修との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くように指導する。・「話すこと・聞くこと」では、できていることが多いので、引き続き、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導を充実させたい。・「書くこと」では、目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書くことができるようにするために、読み取った情報を分類したり関連付けたりして整理する活動を取り入れていく。・「読むこと」に関しては、読書量を増やしつつ、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるように指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none">・全体で見ると、ほぼ全国平均である。算数の学習は「よく分かる」と感じている児童が多く、算数の問題で解き方が分からないときは「あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた児童が多かった。・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の領域では、全国平均であった。中でも「変化と関係」に関しては速さと道のりを基に、時間を求める式に表す力がよく身につけている。また「図形」の平行四辺形の面積を求める問題では、図形の構成の仕方をとらえて面積を求めている。・「データの活用」に関してはグラフで表された複数のデータを比較し、割合の違いをとらえることに課題が見られた。	<ul style="list-style-type: none">・「数と計算」では数量の関係をとらえ、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるので、今後は日常生活の場面に即して判断できる力をつけさせていく。・「図形」では、図形を構成する要素に着目させ、面積の求め方について筋道を立てて説明する力を高めていく指導をする。・「データの活用」では、統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする指導を充実させる。・日頃の学習の中で、問題文から読み取った情報を数直線などで表したり、自分の言葉で相手に説明したりするために、自分の考えを伝える力を身に付けられるような指導をしていく。

【全体を通じて】

国語・算数ともに、基礎的な知識や技能については、概ね定着していることを確認することができた。一方で、自分の考えを文章に表したり、基礎的な知識や技能を応用して問題に取り組んだりする場面においては課題が見られた。そのために、児童が課題を設定して解決に取り組む「問題解決学習」の充実を図り、主体的な学習ができるようにすることが必要である。児童質問紙での回答から自己肯定感が高いこと、自分で決めたことはやり遂げようとしていること、難しいことにも挑戦しようとしていることなどが全国平均よりも上回る結果であったことをふまえ、この意欲の高さを学習に対する興味・関心に結び付けられるよう、指導を工夫していきたい。